

## ① 入域観光客数概況について

## 1. 入域観光客数概況（25年4月～12月実績、1月～3月見通し）

|                                 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------------------------|----|----|----|
| ※航空会社ヒアリングならびに沖縄県内発着便の提供座席数より推測 |    |    |    |
| 国内空路                            |    |    |    |
| 海外空路                            |    |    |    |
| ※クルーズ客船の寄港予定より推測                |    |    |    |
| 国内海路                            |    |    |    |
| 海外海路                            |    |    |    |

| 〈OCVB観光天気予報〉 |                      |
|--------------|----------------------|
|              | 対前年<br>105%以上水準      |
|              | 対前年<br>100%以上-105%未満 |
|              | 対前年<br>95%以上-100%未満  |
|              | 対前年<br>90%以上-95%未満   |
|              | 対前年<br>90%未満水準       |

|        |        |    | 上期 計      | 10月(実績) | 11月(実績) | 12月(実績) | 1月(予測)  | 2月(予測)  | 3月(予測)  | 下期計       | 年度 計       | 1月-3月     |
|--------|--------|----|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|------------|-----------|
| 2025年度 | 空路     | 国内 | 3,965,800 | 721,300 | 661,000 | 645,900 | 600,000 | 618,000 | 730,000 | 3,976,200 | 7,942,000  | 1,948,000 |
|        |        | 海外 | 1,057,600 | 181,700 | 157,300 | 162,800 | 165,000 | 156,000 | 168,000 | 990,800   | 2,048,400  | 489,000   |
|        |        | 合計 | 5,023,400 | 903,000 | 818,300 | 808,700 | 765,000 | 774,000 | 898,000 | 4,967,000 | 9,990,400  | 2,437,000 |
|        | 海路     | 国内 | 29,200    | 3,900   | 1,800   | 2,000   | 2,000   | 5,100   | 5,600   | 20,400    | 49,600     | 12,700    |
|        |        | 海外 | 482,600   | 79,200  | 74,400  | 51,900  | 76,000  | 40,000  | 58,000  | 379,500   | 862,100    | 174,000   |
|        |        | 合計 | 511,800   | 83,100  | 76,200  | 53,900  | 78,000  | 45,100  | 63,600  | 399,900   | 911,700    | 186,700   |
|        | 空路海路合計 |    | 5,535,200 | 986,100 | 894,500 | 862,600 | 843,000 | 819,100 | 961,600 | 5,366,900 | 10,902,100 | 2,623,700 |
|        | 国内合計   |    | 3,995,000 | 725,200 | 662,800 | 647,900 | 602,000 | 623,100 | 735,600 | 3,996,600 | 7,991,600  | 1,960,700 |
|        | 海外合計   |    | 1,540,200 | 260,900 | 231,700 | 214,700 | 241,000 | 196,000 | 226,000 | 1,370,300 | 2,910,500  | 663,000   |
| 前年度比   | 空路     | 国内 | 104.1%    | 104.7%  | 104.5%  | 105.8%  | 106.2%  | 102.3%  | 102.5%  | 104.3%    | 104.2%     | 103.5%    |
|        |        | 海外 | 144.1%    | 146.8%  | 133.3%  | 124.4%  | 111.2%  | 119.7%  | 121.7%  | 125.5%    | 134.5%     | 117.4%    |
|        |        | 合計 | 110.6%    | 111.2%  | 109.0%  | 109.1%  | 107.2%  | 105.3%  | 105.6%  | 107.9%    | 109.2%     | 106.0%    |
|        | 海路     | 国内 | 149.7%    | 66.1%   | 40.9%   | 111.1%  | 117.6%  | 255.0%  | 151.4%  | 104.6%    | 127.2%     | 171.6%    |
|        |        | 海外 | 121.0%    | 115.5%  | 131.9%  | 70.9%   | 111.4%  | 89.5%   | 99.3%   | 102.7%    | 112.2%     | 101.6%    |
|        |        | 合計 | 122.3%    | 111.5%  | 125.3%  | 71.9%   | 111.6%  | 96.6%   | 102.4%  | 102.8%    | 112.9%     | 104.5%    |
|        | 空路海路合計 |    | 111.6%    | 111.2%  | 110.3%  | 105.7%  | 107.6%  | 104.8%  | 105.4%  | 107.5%    | 109.5%     | 105.9%    |
|        | 国内合計   |    | 104%      | 104%    | 104%    | 106%    | 106%    | 103%    | 103%    | 104%      | 104%       | 104%      |
|        | 海外合計   |    | 136%      | 136%    | 133%    | 105%    | 111%    | 112%    | 115%    | 118%      | 127%       | 113%      |

## ■ 概況

## 国内入域：

- ・ 沖縄の魅力発信が功を奏し、1年を通して旺盛な需要に支えられ、国内空路過去最高の762万人（2024年度）を上回る見込み。
- ・ 堅調な個人旅行需要に加え、旅行代理店による企画ツアーなどの団体旅行の需要も好調に推移している。
- ・ 那覇マラソンなどのスポーツイベントの開催に加え、1月はJリーグサッカーキャンプ、2月からはプロ野球キャンプが開催されるなど、旺盛な需要が見込まれる。
- ・ 海路は東京や横浜発の国内クルーズならびに那覇発着のフライ&クルーズが予定されており、堅調に推移している。

## 海外入域：

- ・ 空路は台湾、韓国仁川の需要が好調に推移し、海外空路過去最高の180万人（2018年度）を上回る見込み。
- ・ 石垣/下地島発着の直行便は、台北や韓国仁川を中心に需要が堅調に推移している。2月12日～台北＝下地島線の運航再開、2月13日～台中＝下地島線の新規就航も予定されており、離島地域においても海外入域者数の増加が見込まれる。
- ・ 海路は、台湾・香港発の海外クルーズを中心に堅調に推移している。
- ・ 中国の渡航自粛要請に伴い、団体旅行やクルーズ船寄港のキャンセル、一部路線の運休など影響が発生している。

過年度実績については、沖縄県の[入域観光客概況](#)をご確認ください。

## ①入域観光客数概況について

## 1. 入域観光客数概況（25年4月～12月実績、1月～3月見通し）

## 1月

## 空路

（国内）60万人（25年1月対比 106.2%）と見込む。  
（海外）16.5万人（25年1月対比 111.2%）となる見通し。

## 海路

（国内）2,000人（25年1月対比 117.6%）となる見通し。  
（海外）7.6万人（25年1月対比 111.4%）となる見通し。

クルーズ船寄港本数：21本（25年1月：23本）  
国内クルーズ：10本（那覇・横浜発）那覇発着のフライ&クルーズ8本含む  
海外クルーズ：11本（台湾/基隆、高雄・香港・釜山）  
石垣港・平良港のみ寄港は2本。

## 2月

## 空路

（国内）61.8万人（25年2月対比 102.3%）と見込む。  
（海外）15.6万人（25年2月対比 119.7%）となる見通し。  
台北＝那覇路線  
（新）日本トランスオーシャン航空：2月3日～ 新規就航（デイリー）  
台北＝下地島路線  
スターラックス航空：2月12日～3月26日 運航再開（週2便 月木）  
台中＝下地島路線  
（新）スターラックス航空：2月13日～3月27日 新規就航（週2便 火金）

## 海路

（国内）5,100人（25年2月対比 255%）となる見通し。  
（海外）4万人（25年2月対比 89.5%）となる見通し。  
クルーズ船寄港本数：14本（25年2月：15本）  
国内クルーズ：1本（東京発）  
海外クルーズ：13本（台湾/基隆・香港・中国/上海）石垣港・平良港のみ寄港は4本。

## 3月

## 空路

（国内）73万人（25年3月対比 102.5%）と見込む。  
（海外）16.8万人（25年3月対比 121.7%）となる見通し。  
香港＝石垣路線  
香港エクスプレス：3月29日～ 運航再開（デイリー）  
仁川＝石垣路線  
ジンエアー：3月29日～ 週5便からデイリーへ増便

## 海路

（国内）5,600人（25年3月対比 151.4%）の見通し。  
（海外）5.8万人（25年3月対比 99.3%）となる見通し。

クルーズ船寄港本数：27本（25年3月：23本）  
国内クルーズ：3本（那覇・東京・博多発）那覇発着のフライ&クルーズ1本含む  
海外クルーズ：24本（台湾/基隆・香港・マニラ・シンガポール）石垣港・平良港のみ寄港7本。

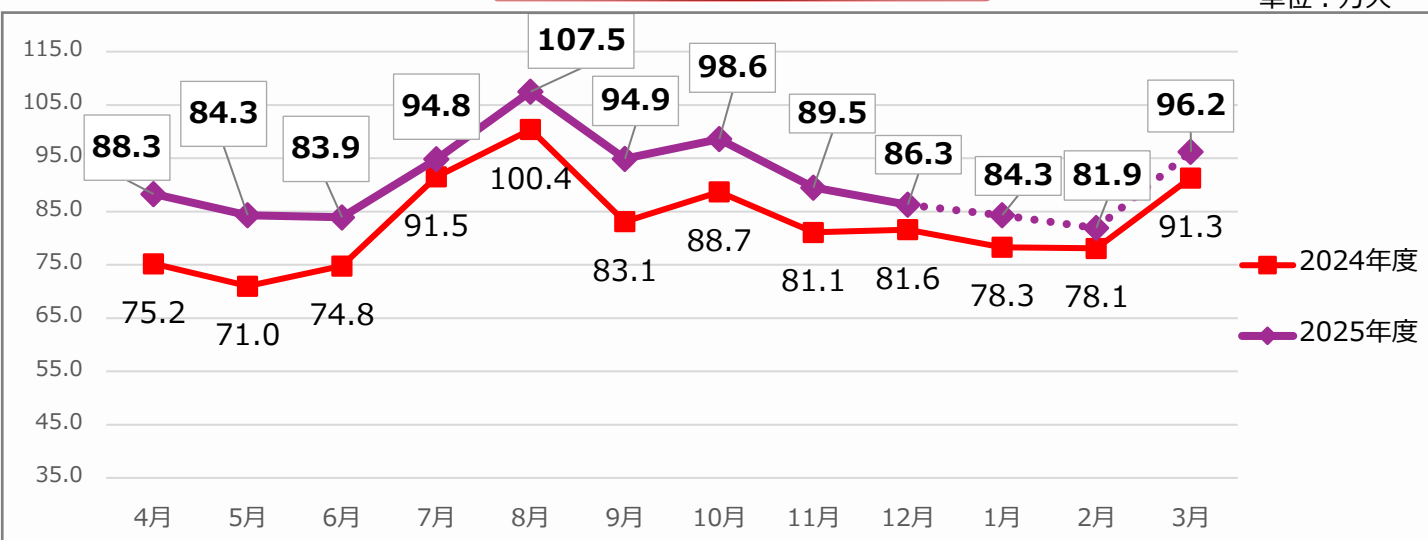
（空路）国内：県外発沖縄県内空港着の搭乗旅客数想定のうち、観光客の混在率をかけたもの  
海外：海外発沖縄県内空港着の搭乗旅客数想定  
（海路）国内：乗船客数想定のうち日本国籍のもの  
海外：乗船客数想定のうち日本以外の国籍のもの  
※国内クルーズ⇒発地が国内 海外クルーズ⇒発地が海外

# ①入域観光客数概況について

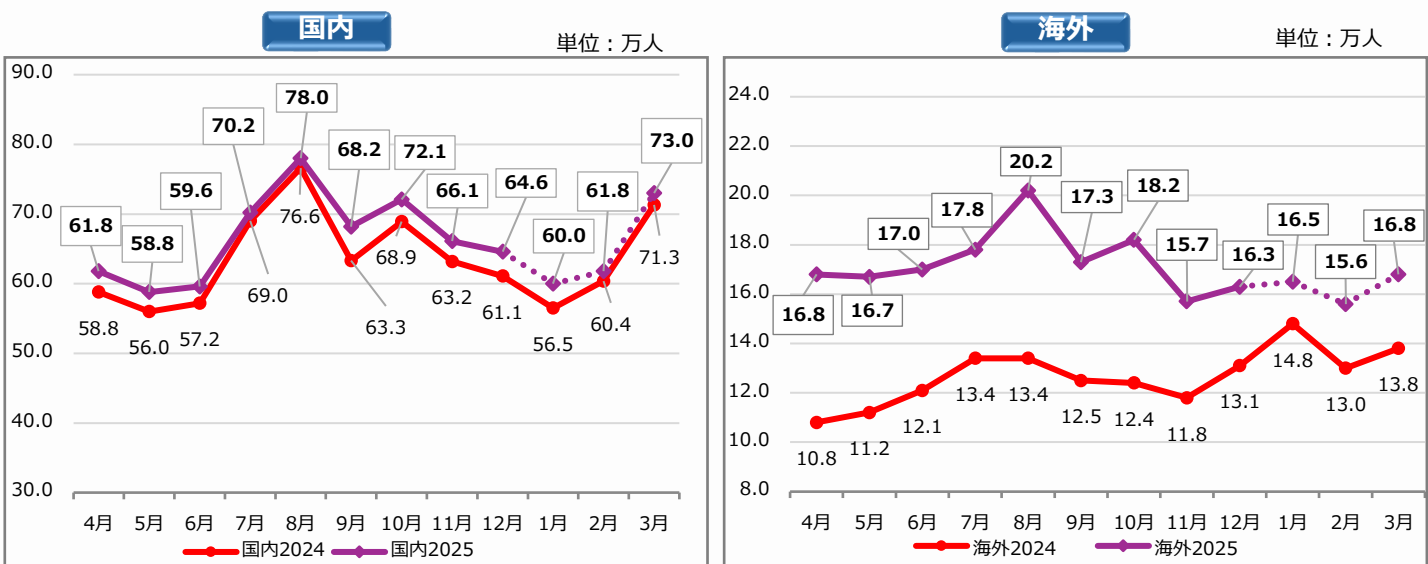
## 2. 入域観光客数概況グラフ

入域観光客(合計)

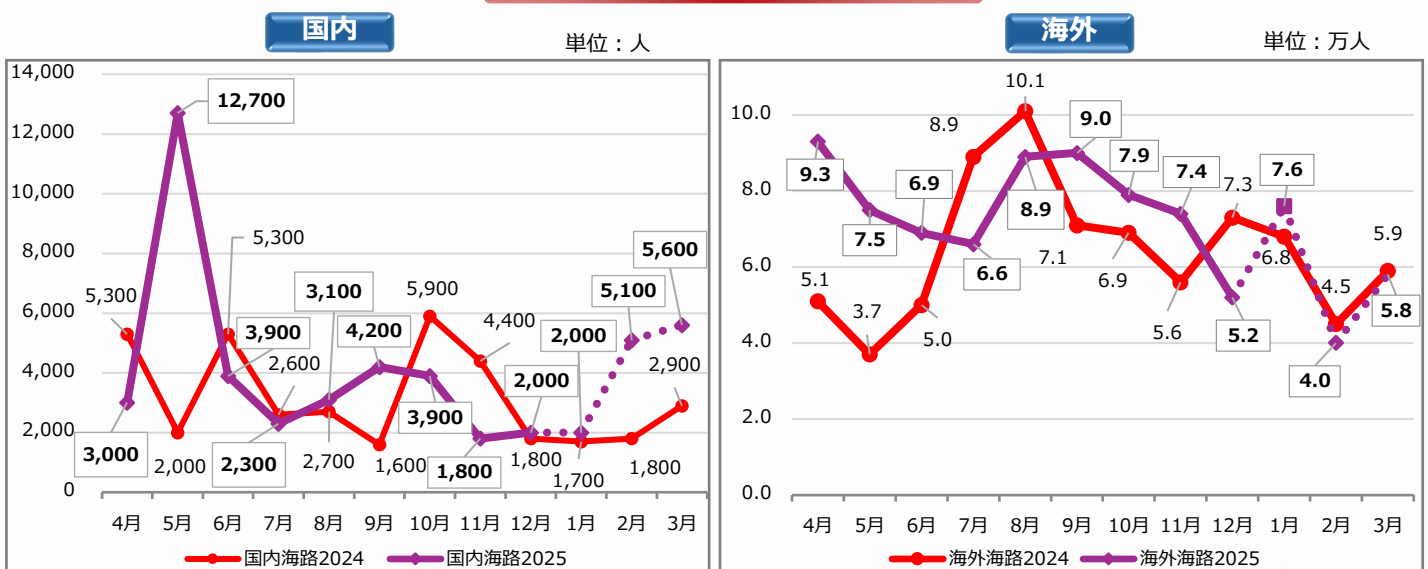
単位: 万人



入域観光客(空路)



入域観光客(海路)



## 「ASIA NEWTRAVEL BOOTCAMP 2026」における登壇について

「ASIA NEWTRAVEL BOOTCAMP 2026（ANTB）」においてOCVBから浜田会長らが講演します。

OCVBは、観光産業における革新的なビジネスモデルの創出を目的に開催される、アジア最大級の観光スタートアップの祭典「ASIA NEWTRAVEL BOOTCAMP 2026」に参加します。会長の浜田をはじめ、各事業担当らが登壇し、講演やパネルディスカッションなどを通じて、沖縄観光の未来やMICEの可能性、人流データを中心とした観光DXの取り組みなどを紹介します。

## 《イベント全体概要》

名称：ASIA NEWTRAVEL BOOTCAMP 2026（ANTB）

日時：2026年2月6日（金）9:00～19:00

前日2/5(土)はANTB2026併催イベントを開催 ※OCVB参加プログラム①

会場：琉球新報ホール

主催：沖縄県

企画運営：WithBlue DMC

後援：OCVB、那覇市

公式サイトURL：<https://antb.asia/>

## 【OCVB参加プログラム①】

名称：どさんこしまんちゅフォーラム with ANTB

日時：2026年2月5日（木）17:00～18:30

場所：琉球新報ホール

登壇：OCVB会長 浜田 京介  
北海道観光機構 会長 唐神 昌子

内容：講演、クロストークセッション

詳細：<https://dosanko-shimanchuwithantb-asia.peatix.com/>



## 【OCVB参加プログラム②】

名称：ANTB

トークセッション：世界が集う理由を、沖縄からつくる ― グローバルMICE最前線

日時：2026年2月6日（金）10:40～11:20

場所：琉球新報ホール

登壇：OCVB事務局長 金城 孝  
沖縄アリーナ株式会社 取締役 片野 竜三



## 【OCVB参加プログラム③】

名称：ANTB

トークセッション：脱・経験則。最新データで読み解く沖縄観光の現在地と伸びしろ

日時：2026年2月6日（金）13:35～15:15

場所：琉球新報ホール

登壇：OCVBマネージャー 坂本 麻美  
他



## 【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

総務企画部 総務企画課 担当：新本

TEL：098-859-6126

Mail：[pr@ocvb.or.jp](mailto:pr@ocvb.or.jp)



# 沖縄MICEプロジェクト開催について

## 沖縄MICEプロジェクト2026を開催いたします

OCVBは、沖縄県から戦略的MICE誘致促進事業を受託しており、2月3日(火)～6日(金)の日程で沖縄県でのMICE開催誘致を目的に、沖縄MICEプロジェクトを2年ぶりに開催いたします。

このプロジェクトでは、今後沖縄県への誘致が期待できる国内外のMICE担当者（旅行会社）を招聘し、沖縄の最新MICEコンテンツの視察、および県内MICE事業者との商談会・ランチョンセミナーを実施いたします。

今年度においては、シンガポールおよび欧米をターゲット市場とし、計15名を招聘いたします。今回、メディアの皆様には、2月4日(水)10時30分よりホテルコレクティブにて行われる、商談会・ランチョンセミナーの取材をご案内いたします。

|        |   |
|--------|---|
| 名 称    | ： 沖縄MICEプロジェクト2026 商談会・ランチョンセミナー  |
| 主 催    | ： 沖縄県・OCVB  |
| 招 聘 者  | ： シンガポール市場（現地エージェント6社6名）<br>欧米市場（欧米市場のクライアントを持つ国内エージェント6社9名）  |
| 開催日時   | ： 令和8年2月4日(水) 10:30～16:30   |
| 開催場所   | ： ホテルコレクティブ 2階 大宴会場   |
| スケジュール | ： 10:00-10:30 受付開始<br>10:30-10:40 主催者挨拶・概要説明等<br>10:45-12:00 商談①～③<br>12:00-13:45 ランチョンセミナー ※県内MICE事業者8社によるPRタイムあり<br>13:45-16:30 商談④～⑧・閉会<br>※商談会（事前マッチング制 計8セッション）1セッション：20分商談＋5分休憩 |
| 県内出展者  | ： 計25事業者<br>（ホテル、MICE施設、ユニークベニュー施設、観光協会、DMC、体験コンテンツ）  |
| ご留意事項  | ： 現場でのご注意事項等、詳細につきましては、当日受付にてご案内いたします。  |

## 前回（令和5年度）の商談会風景



【参考】R6年参加者出発地別開催件数 引用元：沖縄県MICE開催実態調査（令和6年版）報告書

|         | 計（件数） | M | I  | C | E |
|---------|-------|---|----|---|---|
| 韓国      | 35    | 3 | 29 | 3 | 0 |
| 台湾      | 21    | 6 | 12 | 2 | 1 |
| 中国      | 21    | 5 | 15 | 1 | 0 |
| アメリカ    | 11    | 1 | 4  | 6 | 0 |
| 香港      | 9     | 2 | 5  | 2 | 0 |
| シンガポール  | 6     | 3 | 3  | 0 | 0 |
| イギリス    | 4     | 0 | 4  | 0 | 0 |
| タイ      | 4     | 0 | 3  | 1 | 0 |
| オーストラリア | 3     | 1 | 1  | 0 | 1 |
| その他     | 5     | 2 | 0  | 3 | 0 |

### 【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー 海外・MICE事業部 MICE推進課 担当：奥平、池原、折原  
TEL：098-859-6130 Mail：omp@ocvb.or.jp

# 第35回国際MICEエキスポ（IME2026）出展について

## 第35回国際MICEエキスポ（IME2026）への出展について

沖縄県及びOCVBは、沖縄県内のMICE関連事業者との連携のもと、下記のとおり沖縄へのMICE誘致を目的に、「第35回国際MICEエキスポ（IME2026）」に出展します。

「IME」は日本でのMICE開催を検討しているバイヤー（国際会議やインセンティブ旅行の主催者等）とセラー（コンベンション推進団体、コンベンションビューロー及びMICE関連事業者等）との有意義な商談機会を提供する場で、日本のMICE国際競争力を強化し、日本全体のMICEビジネスの拡大に寄与することを目的に開催されます。

沖縄におけるMICEの開催件数は、好調に伸びた国内需要を基盤に、令和6年実績で計2,073件と、過去最高を更新しました。海外案件もコロナ前（令和元年）の8割まで回復し、市場は今後ますますの活性化が期待されます。

そのような中、チーム沖縄MICEで挑む今年度のIMEは、沖縄県内からの出展者も2事業者増えました。MICEに意欲的に取り組む自治体、事業者とも連携し、点から面へと拡大したMICE誘致を行います。

また、会場内特設ステージでは「沖縄MICEセミナー」も開催します。MICE誘致が意欲的に行われる様子をぜひご取材ください。

- 名 称：「第35回国際MICEエキスポ（IME2026）」  
 主 催：一般社団法人日本コンgres・コンベンションビューロー（JCCB）  
 日本政府観光局（JNTO）  
 開催場所：東京国際フォーラム（ホールB5/B7）  
 開催日時：令和8年2月12日（木） 10:30-18:00  
 内 容：国際会議、学会・大会、企業ミーティング、インセンティブ旅行等、MICEを誘致する商談イベント  
 10:30-10:45 開会式  
 10:50-11:35 IME特別講演  
 11:45-12:45 **沖縄MICEセミナー**  
 11:40-18:00 商談会（アポイント制 計15セッション）1セッション：20分商談＋5分休憩

沖縄県からの出展者：沖縄県、OCVB、万国津梁館、沖縄コンベンションセンター  
 （一財）沖縄美ら島財団（沖縄美ら海水族館、首里城公園）  
 那覇エリアMICE推進連絡会  
 沖縄MICEネットワーク（2ブース10事業者）  
 (株)DMC沖縄、(株)アカネクリエーション、(株)西部プリンスホテルズワールドワイド、(株)18project、  
 沖縄アリーナ(株)、(株)CAVE OKINAWA、ANAインターコンチネンタル万座・石垣、  
 ONEVEX production、沖縄ワタベウェディング(株)、パシフィックホテル沖縄

公式WEBサイト：<https://www.ime2026.jp/>

## 昨年度の出展の様子



### 【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー  
 海外・MICE事業部 MICE推進課 担当：比嘉、小野  
 TEL：098-859-6130 Mail：mice@ocvb.or.jp



# 【開催報告】沖縄観光感謝の集い2026について

## 東京都内にて「沖縄観光感謝の集い2026」を開催いたしました。

OCVBでは、沖縄県との共催により、令和8年1月22日(木)に東京都内にて「沖縄観光感謝の集い2026」を開催いたしました。本催事は、これまで沖縄観光の振興にご尽力いただいた関係者の皆さまへ感謝の意をお伝えするとともに、2026年に向けた沖縄観光の方針および取り組みを発信することを目的として実施いたしました。

沖縄県知事より、今年の県の主な取り組みとして「首里城復興に向けた基本計画」や、首里城地下にある「第32軍司令部壕の保存・公開」に向けての取組紹介がありました。あわせて、今後の沖縄観光の新たな方向性を示す「沖縄サステナブルツーリズム宣言」についても説明が行われ、観光を通じて「事業者の地域発展」「旅行者の良質な体験」「県民の生活向上」を実現する「三方よし」の好循環により、持続可能な観光（サステナブルツーリズム）を目指す考えが示されました。

本催事を通じて、観光関係者同士の交流と連携をさらに深めるとともに、沖縄の主要産業である観光産業の一層の発展・振興を図り、「世界から選ばれる持続可能な観光地」の形成に向けた機運醸成につなげました。

【行事名称】沖縄観光感謝の集い2026

【主催】沖縄県、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

【日時】2026年1月22日（木）18時00分～19時30分

【場所】セルリアンタワー東急ホテル（東京都渋谷区桜丘町26-1）

【実施内容】①オープニングアクト、②主催者挨拶、③来賓挨拶、④沖縄県の取り組み紹介  
⑤乾杯のご発声、⑥ステージアトラクション、⑦中締め

【参加人数】500名（招待者390名、県内参加者100名、プレス10名）



### 【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部 国内プロモーション課 担当：城間

T E L : 098-859-6125 Mail : domesticpr-m@ocvb.or.jp

## NYでの沖縄観光プロモーションについて

## New York Travel &amp; Adventure Showへ出展しました

沖縄の魅力をPRし訪沖観光客増を図るとともに、現地観光関連事業者との関係構築を目的に、米国最大級の旅行博「New York Travel & Adventure Show」へ出展しました。

ブース内では沖縄の紹介や紅型模様の衣装を羽織り写真撮影を行う体験コーナーを設置し、多くの方が興味を持ち楽しんでいる様子が伺えました。NYでの沖縄の認知度はとても高く、美しいビーチだけでなく、空手や長寿の島としての知識を持っている来場者も多くいました。今年の秋に再建予定の首里城を紹介したところ、非常に関心を持ち旅行のプランを立てる来場者もありました。今後も沖縄の魅力をアメリカへ届けるプロモーションを実施してまいります。

名 称：New York Travel & Adventure Show

開催日時：1月24日(土)～1月25日(日)

開催場所：Javits Center

公式WEBサイト：<https://travelshows.com/shows/new-york/>

※JNTO（日本政府観光局）日本ブースと共同出展



## 米国市場におけるこれまでの沖縄観光プロモーションと沖縄の注目度

・「観光 × 物産 × エンタテインメント × 沖縄県人会ネットワーク」連携 Awich ニューヨークライブ連動 沖縄プロモーション

昨年9月、沖縄グローバルアンバサダー Awichが出演するセントラルパークで開催された「Summer Stage」ライブにて、沖縄の自然、文化、観光の動画を放映し沖縄のプロモーションを実施しました。併せて現地観光局、航空会社と誘客活動についての具体的な意見交換も行いました。また、沖縄県産業振興公社の支援事業で行われた「Okinawa Fair」には沖縄県内から多くの物産事業者が参加し現地のバイヤーと商談を行いました。その後、数社で成約まで繋がった案件もあり、県内のビジネスチャンスを生み出す機会にもなりました。

・「2026年行くべき旅行先」として多くの媒体に選出

“52 Places to Go in 2026”「2026年に行くべき52か所」（米紙ニューヨークタイムズ）

“2026 Trending Destinations”「2026年に訪れるべき世界の旅行先10選」

（アメリカン・エクスプレス・トラベル）

“Unpack’26”「2026年の旅行トレンド」（エキスペディア・グループ）



## 米国市場の概況

【消費額】インバウンド消費者動向調査2024（観光庁）

2024年訪日外国人 1人当たり旅行支出額（米国）約33万円／訪日平均22.7万円

※R6年度外国人観光客実態調査報告書（沖縄県）訪沖平均約11万円

【入域数】入域観光客数（沖縄県）※沖縄県で入国した入域者のみカウント（国内経由での入域者は含まない）

国籍別入域観光客数（アメリカ）2018年度3.8万人、2024年度5.1万名。1万人以上増加

| アメリカ      | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 合計     |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 2018年度    | 4,300 | 2,700 | 2,800 | 2,800 | 2,300 | 1,700 | 5,900 | 4,300 | 2,400 | 1,700 | 2,600 | 4,500 | 38,000 |
| 2023年度    | 3,000 | 1,600 | 2,000 | 1,400 | 1,100 | 1,500 | 6,100 | 3,800 | 2,000 | 1,600 | 3,700 | 8,900 | 36,700 |
| 2024年度    | 5,100 | 1,800 | 4,200 | 2,100 | 2,100 | 2,800 | 7,900 | 4,900 | 5,700 | 3,600 | 4,000 | 6,900 | 51,100 |
| 2025年度    | 6,000 | 4,100 | 4,200 | 3,200 | 2,800 | 3,000 | 4,700 |       |       |       |       |       | 28,000 |
| 対前年同月比    | 118%  | 228%  | 100%  | 152%  | 133%  | 107%  | 59%   |       |       |       |       |       |        |
| 対2018年同月比 | 140%  | 152%  | 150%  | 114%  | 122%  | 176%  | 80%   |       |       |       |       |       |        |

また、2025年国内線経由入域外国人数（北米）約24万人。経由入域数49万人の半数である約49%が北米。

## 今後のプロモーション

国内及び海外経路便での訪沖・旅行支出額・入域数等、マーケットのポテンシャルや県内事業者のニーズを踏まえ、米国市場は更に強化すべきマーケットと考えている。特に国内線経路便や海外経路便（台北）のプロモーションとして、航空会社との連携プロモーションの実施を今後展開するものとした。

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

海外・MICE事業部 海外プロモーション課 担当：稲福・照屋

TEL：098-859-6127 Mail：okinawatourism@ocvb.or.jp



# 観光事業者収益力向上サポート事業（観光サポート 2026）

## 「観光事業者収益力向上サポート事業（観光サポート 2026）補助金」 補助事業者募集中！

一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センター（以下、「ISCO」という。）とOCVBが連携し設立した観光事業者収益力向上サポートコンソーシアム（以下、「事務局」という）では、沖縄県からの委託を受けて、「観光事業者収益力向上サポート事業（観光サポート 2026）」を実施します。

本事業では、沖縄県内の観光従事者の労働環境改善に向け、観光事業者の「人材不足解消」に向けた収益力向上に資する「生産性向上」「収益力向上」を目標とする設備投資やシステム構築等の取組みに対して補助をいたします。事業説明会や個別相談も開催いたしますので、人手不足でお悩みの観光事業者の皆様にご活用いただきたく、広く周知のほどよろしくお願いいたします。

### ■実施概要

公募期間：令和8年2月2日(月)～令和8年2月27日(金) 13時まで

補助上限額：10,000千円（消費税及び地方消費税は含まない）

補助対象経費：

・観光事業者の無人化・省人化に資する取組（収益力向上）に要する、次に掲げる経費

ア. 備品購入、ソフトウェア等の購入・改良費（新たに導入するリース料も含む）、  
クラウドサービス利用料

<例>

備品購入：自動セルフチェックイン機、GPS音声ガイドシステム等

ソフトウェア等の購入・改良費：（ア）に付随するソフトウェア、予約システム、

QRセルフオーダーシステム、

免税対応キャッシュレスPOSシステム 等

イ. システム構築費

<例> 顧客管理システム、AI多言語案内システム等

ウ. 上記に付随する施設整備・改良費、運搬費

<例> 社内システム構築費、機器の輸送・搬入費等

エ. その他知事が必要と認める経費

※10万円未満（単価）の備品購入は対象外です。

本事業の詳細な内容や質問・申し込みについては[Webサイト](https://www.ocvb.or.jp/support/4725)よりご確認ください。

▼詳細Webサイト

・観光事業者収益力向上サポート事業（観光サポート2026）補助金のご案内はこちら：

<https://www.ocvb.or.jp/support/4725>



### 【参考】過去実績

・令和6年度支援件数：55件

・令和7年度採択件数：27件 ※現在事業実施中

※令和6年度に本事業において支援を行った取組の中から、優良事例についてとりまとめた

「令和6年度 沖縄県観光事業者収益力向上サポート事業 成果事例集」を公開しております。

あわせてご確認ください。

・【令和6年度】沖縄県観光事業者収益力向上サポート事業 成果事例集

<https://www.ocvb.or.jp/topics/4531>



### 【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー  
国内事業部 受入推進課 担当：渡辺

TEL：098-859-6129

Mail：[kansup\\_info@isc-okinawa.org](mailto:kansup_info@isc-okinawa.org)（担当：東口）

# 観光業従事者を対象とした従業員満足度調査の結果について

## 観光業従事者「観光業で働きたい」75.6%

### 「観光業従事者を対象とした従業員満足度調査」実施結果について

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)は、沖縄県より観光人材育成・確保促進事業を受託しており、「観光業従事者を対象とした従業員満足度調査」を実施いたしました。結果を公表いたしますので、社内の人事制度や採用活動、エンゲージメント向上に向けた取り組みなどにお役立てください。

#### 【調査概要】

**調査目的**：沖縄県では観光業の人材不足や若年層の早期離職が課題となっている。そのため、県内観光業従事者の現状、課題及び要望等を把握し、新たな施策展開を図ることを目的に調査を実施する。

**調査対象**：沖縄県内の観光関連従事者（経営者・役員・理事等を除く）

**調査期間**：令和7年10月1日(水)～11月30日(日)

**調査方法**：観光関連企業宛にメールや案内状送付によるWEBアンケート調査を実施

**有効回答数**：529件

#### 【結果概要】

- 業界や勤務先を決定するうえでの重要度について、「**職場の人間関係や信頼関係**」が最も重要視されており、「**待遇（給与・賞与など）**」が続く。
- 現在の仕事（勤務先）に対する満足度では、多くの項目で満足している（「非常に満足している」、「満足している」の合計）という回答が過半数を占めた。中でも、「**働き方の柔軟性**」の項目が最も満足度が高い結果となった。一方、「**待遇（給与・賞与）**」については満足度が低い傾向にあり、重要度との差が大きくなっている。
- 観光業界での勤続意向では、昨年度の調査に引き続き、**働き続けたいと考えている従事者が7割以上**を占めている。働き続けたい理由について、「**観光業の仕事が好きだから**」という回答が最も多くなった。
- 現在働いている会社での勤続意向についても、観光業界での勤続意向同様、**働き続けたいと考えている従事者の割合が8割近く**と良好な結果となった。働き続けたい理由としては、「**職場の雰囲気や同僚との関係が良好であるため**」という回答が最も多く挙がった。
- 有給休暇の取得について、**約8割の従事者が有給休暇を取得できる**という結果となった。昨年度の調査に引き続き、休暇が取りやすい環境は一定程度整備されていると考えられる。

#### 【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー  
国内事業部 受入推進課 担当：具志堅・喜瀬  
TEL：098-859-6129 Mail：[ikusei@ocvb.or.jp](mailto:ikusei@ocvb.or.jp)

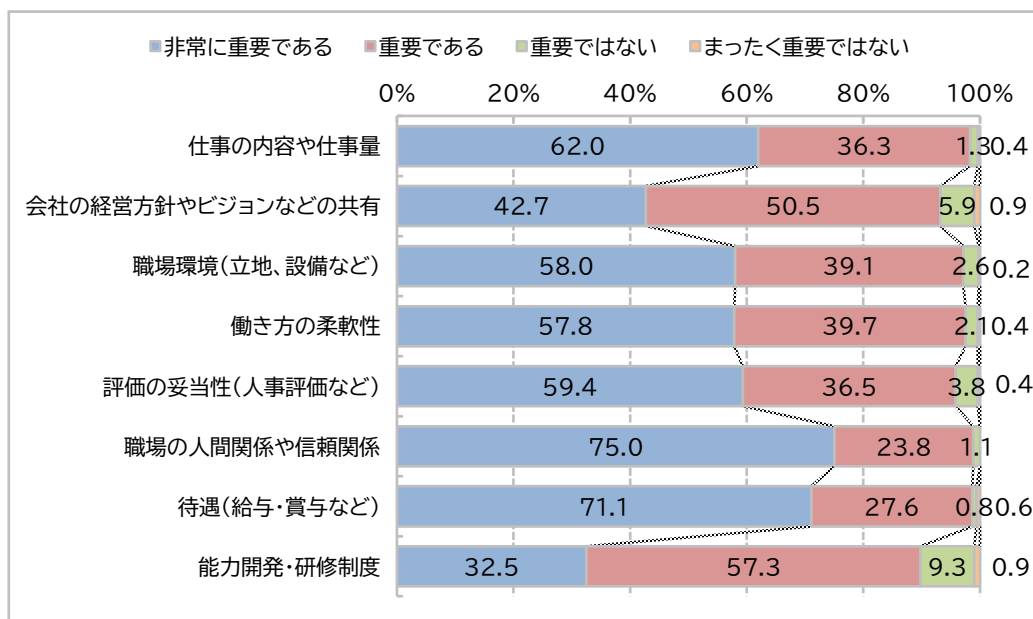
沖縄県 文化観光スポーツ部 観光振興課  
担当：金城  
TEL：098-866-2764 FAX：098-866-2765

## 観光業従事者を対象とした従業員満足度調査の結果について

## 職業重要度・満足度について

“業界や勤務先を決定するうえでの重要度について、それぞれお答えください”という設問について、「非常に重要である」と回答した割合が最も高い項目は、【職場の人間関係や信頼関係（75.0%）】、【待遇（給与・賞与など）（71.1%）】となっており、次いで、【仕事の内容や仕事量（62.0%）】、【評価の妥当性(人事評価など)(59.4%)】などと続いている。

〔職業重要度について（n=529）〕

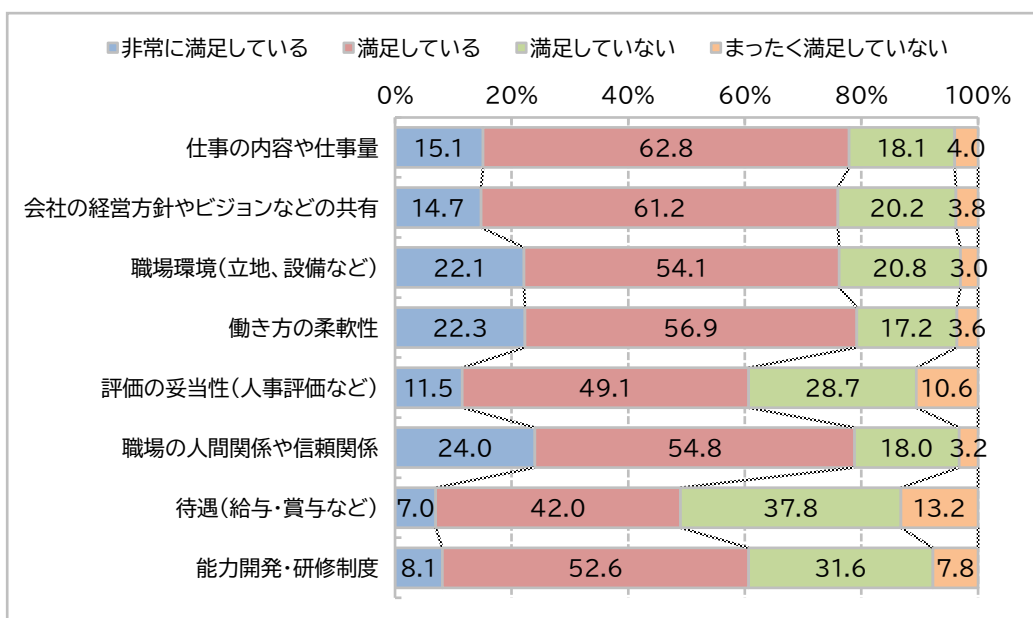


“現在の仕事（勤務先）に対する満足度について、それぞれお答えください”の設問では、【職場の人間関係や信頼関係】【働き方の柔軟性】【職場環境（立地、設備など）】の項目で満足度が高い結果となった。

全体的には多くの項目で満足している（非常に満足している＋満足している）という回答が過半数を占める一方、【待遇（給与・賞与など）】においては、満足していない（満足していない＋まったく満足していない）の方が、満足している（満足している＋非常に満足している）よりも高い結果となった。

次いで、【能力開発・研修制度】【評価の妥当性(人事評価など)】の項目で満足度が低い結果となった。

〔職業満足度について（n=529）〕





## 観光業従事者を対象とした従業員満足度調査の結果について

重要度・満足度の各選択肢について4象限に分けたところ、以下のような結果が得られた。

## ① 重点維持項目

「職場の人間関係や信頼関係」や「仕事の内容や仕事量」、「働き方の柔軟性」、「職場環境（立地、設備など）」といった選択肢では、重要度・満足度ともに高く、満足度の継続的な維持・強化が求められる。

## ② 重点改善項目

「待遇（給与・賞与）」の選択肢については、職業選択における重要度が高いものの、満足度が低い結果となっており、重点的な満足度の改善が求められる。

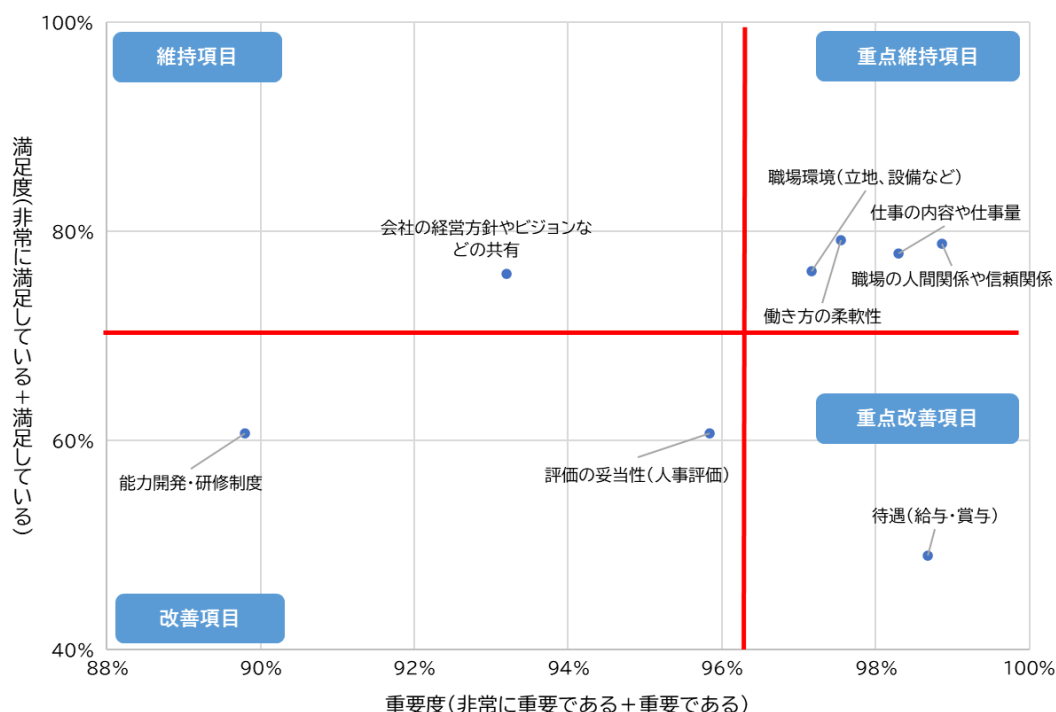
## ③ 維持項目

「会社の経営方針やビジョンなどの共有」の選択肢は、満足度は高いものの重要度はやや低くなっている。

## ④ 改善項目

「能力開発・研修制度」や「評価の妥当性」の選択肢では、職業選択における重要度はやや高いが満足度が低くっており、重点改善項目の次に満足度の改善が必要であると考えられる。

【【参考】重要度と満足度における各選択肢の分類】



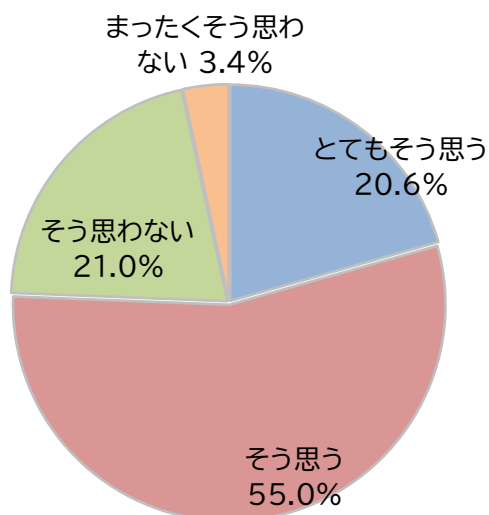
注：【重要度】は、回答全体に占める「非常に重要である＋重要である」の割合。【満足度】は、回答全体に占める「非常に満足している＋満足している」の割合。赤線は、各選択肢を合算した【重要度】・【満足度】それぞれの平均値を示している。

# 観光業従事者を対象とした従業員満足度調査の結果について

## 観光業での勤続意向について

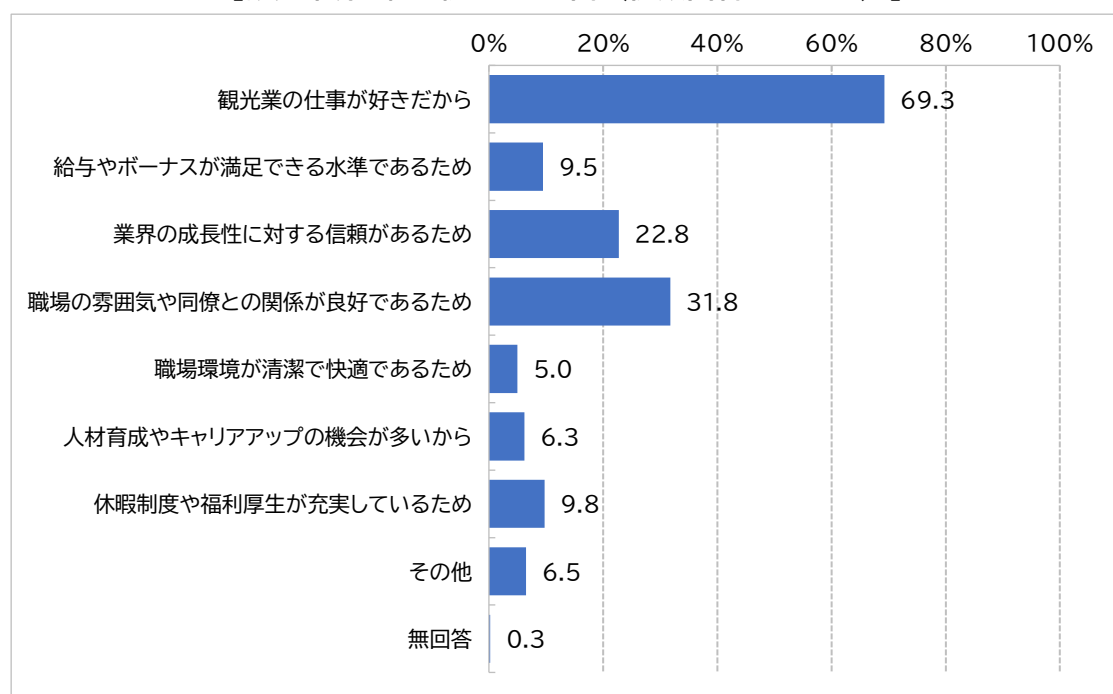
“観光業界で働き続けたいと思いますか”の設問について、働き続けたい（とてもそう思う＋そう思う）と回答した割合は約 7 割となった。【そう思わない】と回答した割合は21.0%、【まったくそう思わない】と回答した割合は3.4%となった。

〔観光業での勤続意向（n=529）〕



働き続けたい（とてもそう思う＋そう思う）と回答した従事者について、働き続けたい理由として【観光業の仕事が好きだから（69.3%）】と回答した割合が最も高い結果となった。

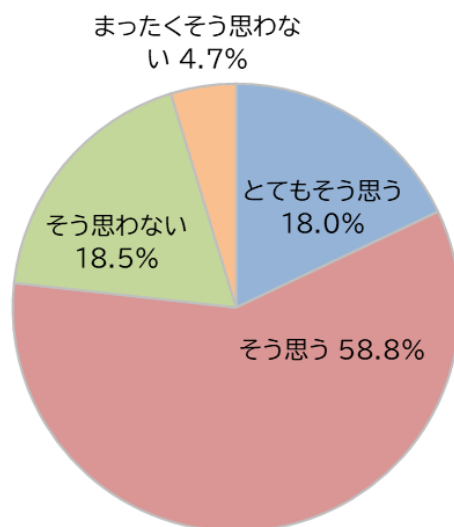
〔観光業界で働き続けたい理由（複数回答 n=400）〕



## 観光業従事者を対象とした従業員満足度調査の結果について

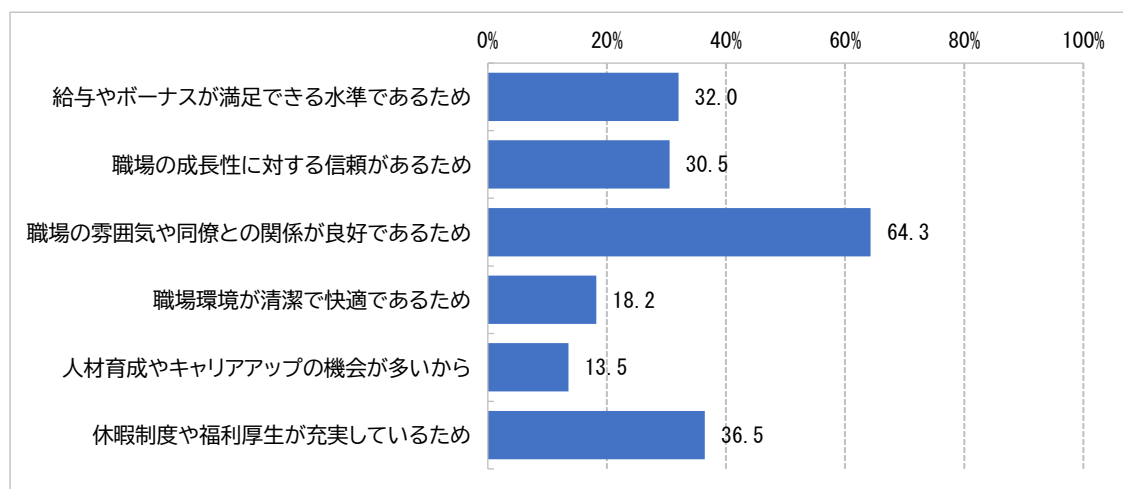
“現在働いている会社で働き続けたいと思いますか”という設問について、働き続けたい（とてもそう思う＋そう思う）との回答が約8割（76.8%）を占めている。【そう思わない】と回答した割合は18.5%、【まったくそう思わない】は4.7%となっている。

〔現在の職場での勤続意向（n=529）〕



働き続けたいと回答した従事者について、働き続けたい理由として【職場の雰囲気や同僚との関係が良好であるため（64.3%）】との回答が最も多い結果となった。次いで【休暇制度や福利厚生が充実しているため（36.5%）】、【給与やボーナスが満足できる水準であるため（32.0%）】などが続いた。

〔現在の職場で働き続けたい理由（複数回答 n=406）〕

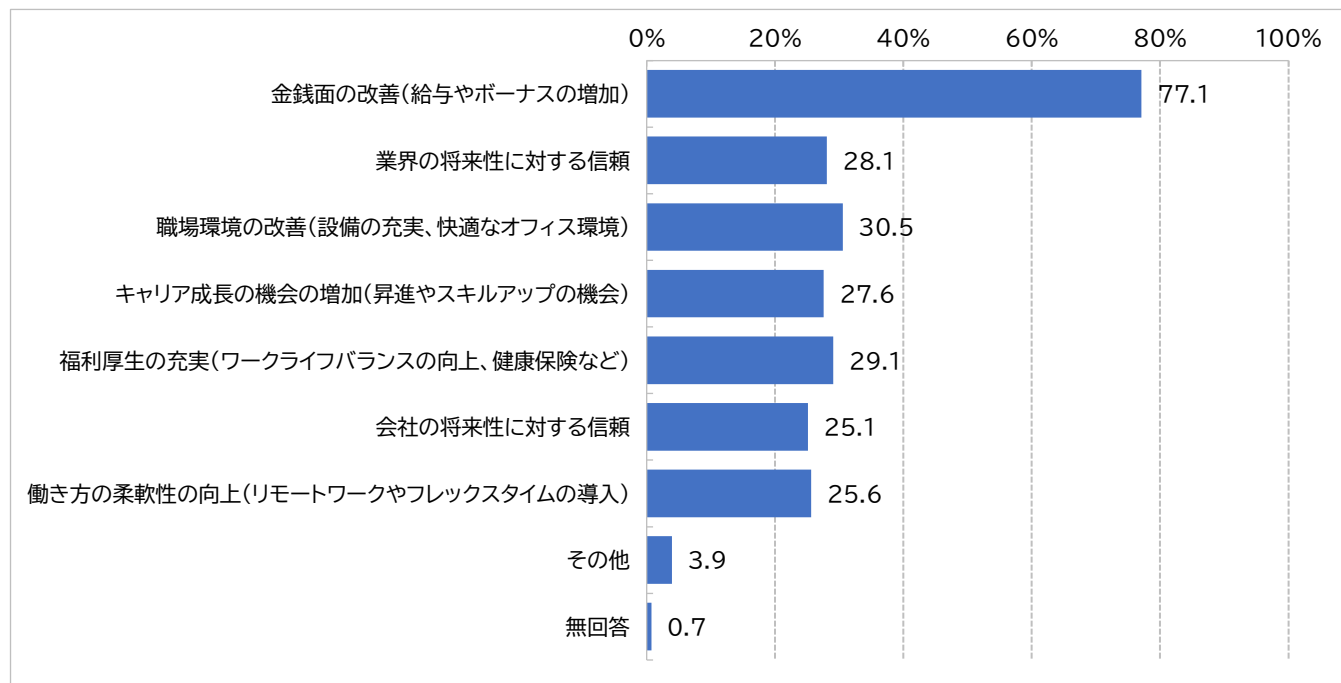




## 観光業従事者を対象とした従業員満足度調査の結果について

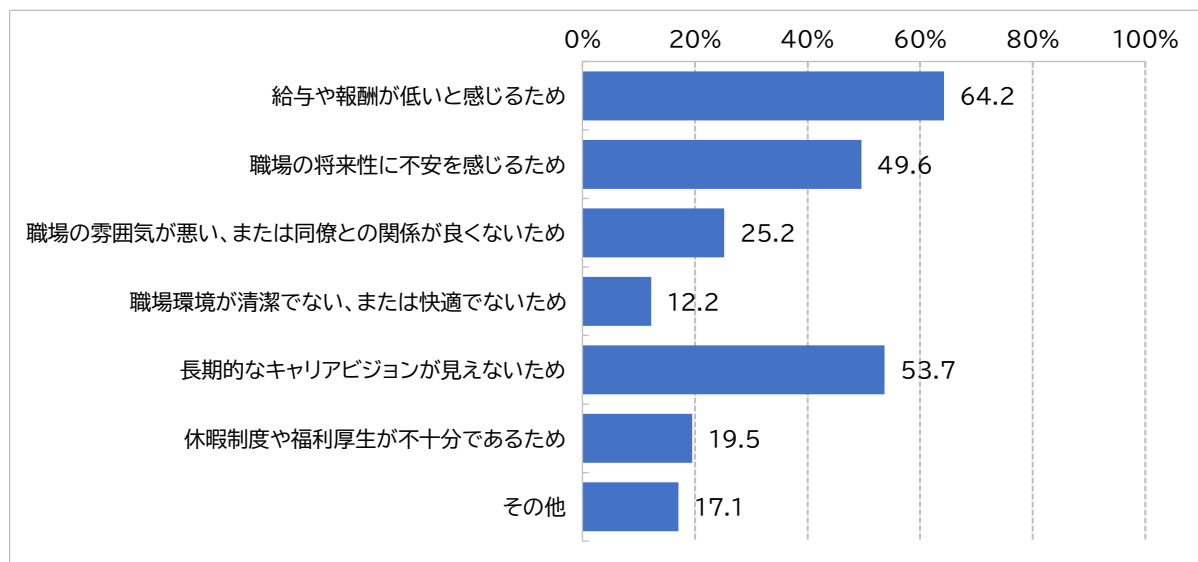
“今後、何を改善すれば今の会社でより働きたいと考えますか”の設問では、【金銭面の改善（給与やボーナスの増加）（77.1%）】を求める意見が多く見られた。

〔現在の職場での勤続意欲向上のための取り組み（複数回答 n=406）〕



働きたくないと回答した従事者について、働きたくない理由は【給与や報酬が低いと感じるため（64.2%）】と回答した割合が最も高く、次いで【長期的なキャリアビジョンが見えないため（53.7%）】、【職場の将来性に不安を感じるため（49.6%）】などが続いた。

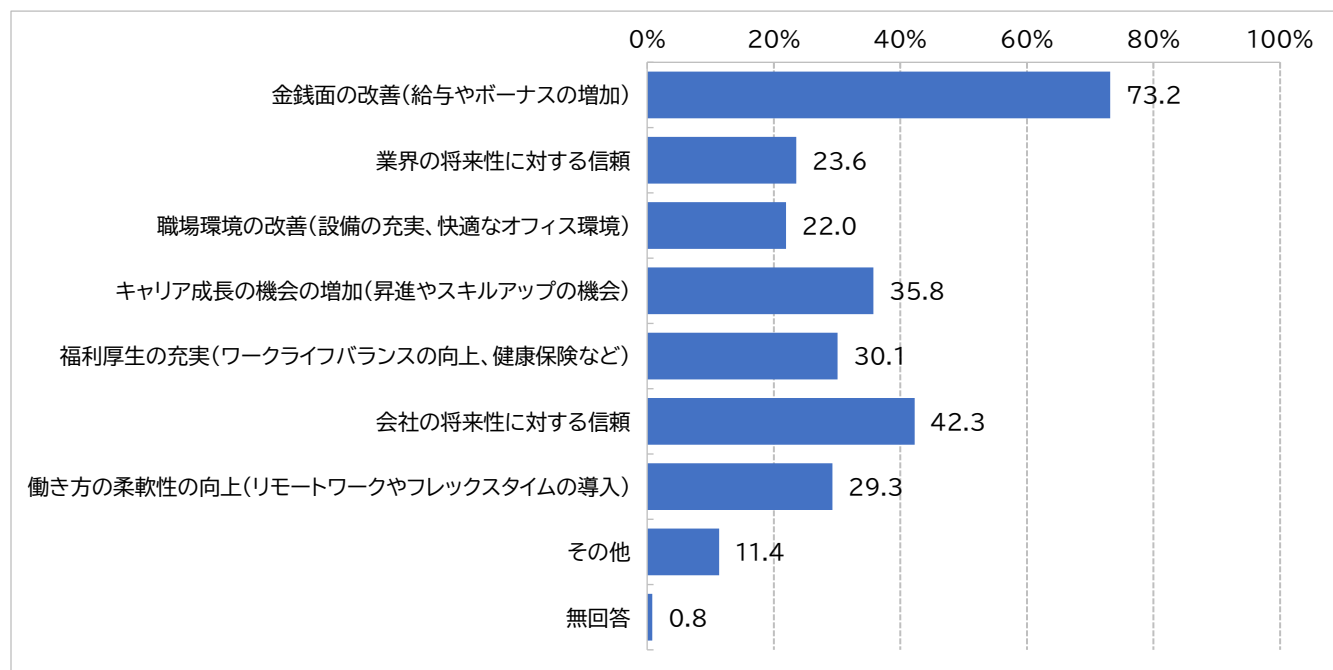
〔現在の職場で働きたくない理由（複数回答 n=123）〕



## 観光業従事者を対象とした従業員満足度調査の結果について

“今後、何が変われば今の会社で働き続けたいと思いますか”の設問では、働き続けたいと回答した従事者の意見と同様、【金銭面の改善（給与やボーナスの増加）（73.2%）】と回答した割合が最も高い結果となった。

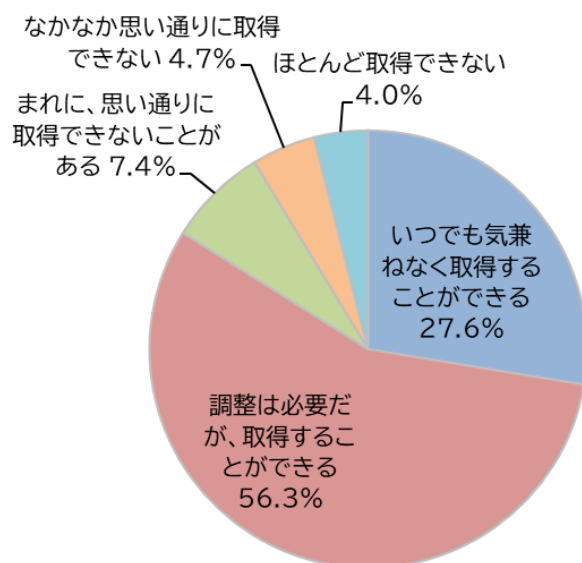
〔現在の職場での勤続意欲改善のための取り組み（複数回答 n=123）〕



### 有給休暇の取得しやすさについて

“勤務先での有給休暇の取得しやすさについて、あてはまるものを1つ選択してください”という設問について、【いつでも気兼ねなく取得することができる（27.6%）】と【調整は必要だが、取得することができる（56.3%）】の合計が全体の8割超となっている。

〔有給休暇の取得しやすさ（n=529）〕



# 観光業従事者を対象とした従業員満足度調査の結果について

沖縄県の観光業では、コロナ禍後の観光需要の回復に伴う人材不足の状況が継続しています。昨年度の調査から引き続き、勤続意向の有無にかかわらず、待遇（給与・賞与）に対する不満の声が多く、待遇の改善は今後人材を確保していくうえで、欠かせない取り組みです。

待遇以外にも、「評価の妥当性」「能力開発・研修制度」については、他の項目と比べて満足度が低く、体系的な研修制度や評価基準の見直しを行い、スキルアップの機会をつくることや、定期的に人事評価を実施することで、従業員が自社や業界内で長期的にキャリアを形成できるビジョンを示すことが重要となります。

一方、昨年度に続き、従業員の70%以上が観光業界で働き続けたいと考えていることが分かり、業界に対する愛着や仕事の魅力を感じている層が多く、職場の人間関係が良好であることも業界の魅力です。

また、「働き方の柔軟性」の項目が最も満足度が高く、年代別で見ると、30代、40代の子育て世代で特に満足だと感じると回答した割合が高くなるなど、「働きやすさ」については改善が進んでいることが推察されます。

他産業と比べても劣らない魅力ある産業となり、新たな人材の確保することに加え、今いる人材を定着させ継続してもらうためにも、待遇面での改善といった不満につながる要因を取り除くことはもちろん、併せて、適切な人事評価といった満足度を高める要因を増やしていくなど、両輪で取り組みを強化していく必要があります。

沖縄県とOCVBでは、待遇改善に向け経営力向上を目的とした各種セミナーや、専門家の派遣を行いハンズオンでの支援などを行う「観光人材育成・確保促進事業」や、観光事業者が人材不足を補うために実施する設備投資やシステム構築などの無人化・省人化に向けた取り組みを支援する「観光事業者収益力向上サポート事業」等を通じて、引き続き県内観光事業者の人材育成・確保や経営者の皆様のサポートを行ってまいります。

※詳しい調査内容や回答者の属性は、結果報告書に記載しております。

下記URLよりご覧ください。

<https://www.ocvb.or.jp/topics/4727>



※昨年度の調査結果については下記URLをご覧ください。

<https://www.ocvb.or.jp/topics/4523>

